

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 復興支援 - 15

学校名・団体名	日本学校教育相談学会 調査研究委員会
コース	団体研究
活動・研究のテーマ	石巻市への心理的支援ニーズの把握と支援方法の検討
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>本研究は、日本学校教育相談学会調査研究会として行う東日本大震災復興支援の一部である。東日本大震災から月日が経ち、人々の住まいなどの環境面やその他様々な面で復興が進んできた。しかし、震災を経験した児童生徒や学校現場の教職員たちの心理的支援の必要性は言うまでもなく、今後も継続して行っていく必要がある。震災を経験した当時小学生だった児童は現在中学生になり、生徒が迎える思春期の心の葛藤や人間関係形成等は、他県の生徒よりも難しさを抱えることが明らかになっている。</p> <p>そこで、日本教育相談学会調査研究委員会として石巻市教育委員会と連携し、石巻市の小中学校の児童生徒、教職員を対象にアンケート調査やインタビュー調査を行うことで、石巻市の心理的援助ニーズの把握とそれらを元にした支援のあり方を検討する。</p>	

1 対象者 石巻市内の小中学校の児童生徒および教職員

- 2 調査内容 児童生徒や教職員や学校に必要なサポート体制等を検討するため、現在の学校生活の中での困り感に関する調査を質問紙により実施する。
※質問紙調査の結果を踏まえてインタビュー調査も実施する。

3 調査の意義

- ・教職員を対象にアンケート調査で大規模な量的研究を行うこと、その後のインタビュー調査で震災経験や個に応じた内容をもとに質的研究を行うことで、2つの側面からより具体的な支援のあり方を明らかにする。

4 調査の進め方

月	活動内容
5	市内小中学校校長会でアンケート調査実施について説明
5	本調査の内容の確認と準備 調査研究委員会の会議と質問紙作成
5～6	本調査の配布と実施 石巻市訪問とその後のインタビュー調査計画
7～8	インタビュー調査の実施 本調査の質問紙結果の打ち込みとデータ分析
9～	インタビュー調査分析 逐語、質的分析の実施
12	報告書の作成
2	石巻市教育委員会への報告
3	次年度以降の計画の作成

5 調査して分かったこと

①勤務する教員の困り感の高さ

他県と比較したデータでは、石巻市の教員のほうが他県の教員に比べて困難を感じている項目がかなり多かった。「いじめ」「不登校」「学習意欲の低下している児童生徒」「学力の低い児童生徒」「無気力・無関心な児童生徒」「児童生徒のグループ内外で起こる問題」「障害のある児童生徒」「障害のある児童生徒について周囲の児童生徒の理解を促す指導」「衝動性、攻撃性の高い児童生徒」「愛着に課題を抱える児童生徒」「家庭環境に課題を抱える児童生徒」「保護者同士の人間関係」など多岐に渡っている。児童生徒の乳幼児期からの生育状況や家庭状況などにも注目して、切れ目のない支援をしていく必要がある。

②被災経験との関連について

調査からは、学区域での被害状況の小さい学校の方がいくつかの項目で困り感が高いという結果が得られた。被害状況が大きかった学校ほど支援が手厚いという状況が想定され、被災状況の大小と関連しない結果が見られたと考えられる。また、震災から7年以上が経過し児童生徒の転居などによる移動が生じており、学区域の被害状況と在籍している児童生徒の体験が一致していない場合も考えられる。子ども、家庭の情報にさらに着目し対応していく必要がある。

③学校環境、組織特性について

管理職や主任層との関係、同じ職場の教員同士の関係は良好であることがうかがえる。一方、教員の多忙感が高く、また学校運営に自分の意見が反映されにくいと感じている傾向も見られた。学校にとって自分が大事な存在であると感じられることは、教員のモチベーションやバーンアウトの問題にも関連することから、学校への所属感や貢献しているという感覚が感じられるような取組み、組織体制を整えていくことが必要である。